

まさきだより

令和7年9月25日

教科担任制のメリット・デメリット

本校では今年度、高学年で教科担任制と交換授業を導入しました。低学年では従来の学級担任制です。7月の学校だよりで、児童アンケートの結果を掲載しました。結果から児童にとって、おおむね好評であることが分かりました。そこで、全教員に、教科担任制に関するアンケートをとりましたので、結果をお知らせします。

○メリット、よさ、成果について

【生徒指導面の成果】

- 他の学級の指導にも入れるようになったため、児童との関係づくりができたので、学習指導や生徒指導の幅が広がった。
- 先生方をフォローしあうことで、児童との関係も築きやすくなった。

【学習指導面の成果】

- 専門の教科を教えていることで、児童のどんな質問にも答えやすい。
- 同じ授業を複数回にわたり実施することで、授業を改善することができる。

【職員集団としての成果】

- 授業や時間割の打ち合わせを放課後に行うことで、教師の横のつながりができやすいので、教職員間でコミュニケーションをとる場面が増えた。
- 教科担任制で落ち着かないということもなく、欠席者も保健室への来室者も減少していて、落ち着いた学校生活になっている。



●デメリット、問題点、課題について

【学級担任制のよさについての課題】

- 自分の学級の授業がない日もあり、自分の学級の児童に目を配ることが難しい。

【行事との兼ね合いの課題】

- 体育の教科担任は、運動会の時期では難しい。水泳の授業も同様。
- 健診の引率など、教科担任制の場合は難しい。

【仕組みとしての課題】

- 低学年への教科担任制の導入は慎重に検討したい。
- 実験、制作、実習などの進み具合には個人差があり、遅れている児童への対応がしにくい。



家庭科の教科担任の授業で9月26日、小松菜のお浸しをつくりました。お湯を沸かしたり、包丁を慎重に扱ったりして、完成しました。教科担任の授業です。

教科担任制によって、毎日の授業を充実させることが、児童の安定した学校生活につながっていると考えています。メリットをさらに伸ばし、デメリットを解消し、児童に力を付ける学校経営に努めます。今後ともよろしく願います。 校長 花村伸二